

令和 2 年度第 2 回さっぽろ建設産業活性化推進協議会
議事概要

1. 開催概要

日時：令和 3 年 3 月 11 日(木) 14:00～15:53

場所：北海道経済センター 8 階 A ホール

次第：

1 開会

2 挨拶 札幌市建設局長 小林 安樹

3. さっぽろ建設産業活性化推進協議会について

4. 本日の意見交換の進め方について

5 議事

(1) 中高生向け建設産業 PR パンフレット修正素案について

- ・建設産業の対象別 PR 内容
- ・中高生向け建設産業 PR パンフレットのコンセプト
- ・インフラ整備・管理の高度化と DX の推進
- ・建設産業 PR パンフレットの修正素案

(2) 令和 2 年度 of 取組状況と令和 3 年度 of 取組予定（案）について

- ・札幌市 of 取組（案）について
- ・各業界団体への照会結果について

(3) その他

6. 連絡事項

(1) ワークフェスさっぽろ合同企業説明会

(2) さっぽろ MEETS（出会い）プロジェクト

(3) 札幌市働く世代への健康増進アプローチ研究事業

7 閉会

出席者・出席機関：

構成員：別添「さっぽろ建設産業活性化推進協議会 構成員」のとおり

（欠席：札幌塗装工業協同組合）

札幌市：建設局、財務局、都市局、水道局、下水道河川局

2. 議事録

(1) 開会（建設局土木部 西村技術管理・建設産業担当課長（以下、西村課長））

(2) 挨拶（小林建設局長）

当協議会の開催につきましては新型コロナウイルス感染症拡大の警戒が続いている中で開催そのものについても内部で開催する・しないということについて検討をしてきたところ、また、状況を見守ってきたところですが、札幌市内において一定程度感染が落ち着いてきていること、また広い会場や感染症対策を徹底できること、こういうことを踏まえて開催するとしたところです。

本日 3 月 11 日は各テレビ局などでも報道されていますが、東日本大震災からちょうど丸 10 年という日です。また、北海道におきましては 2 年半前に胆振東部地震を経験してブラックアウト

なども経験しました。災害の発災直後の緊急対応やその後の復旧・復興を中心的に担っていただいているのが建設産業の皆様です。こうした地域の守り手であります建設産業の皆さんの将来にわたる体制維持の確保に向けて昨年5月に策定したさっぽろ建設産業活性化プランに基づき、皆様と行政が連携をしながら取り組みを進めていきたいと考えております。そうした意味におきましても本協議会ではぜひ皆様のお立場、経験、視点そういうものから忌憚のないご意見・ご助言・ご提案を賜れば幸いに存じます。本日はよろしく申し上げます。

(3) さっぽろ建設産業活性化推進協議会について

- ・配布資料確認

(4) 本日の意見交換の進め方について

(5) 意見交換（進行：北海道大学 高野教授）

1) 中高生向け建設産業 PR パンフレット修正素案について

【説明事項】

- ・建設産業の対象別 PR 内容
- ・中高生向け建設産業 PR パンフレットのコンセプト
- ・インフラ整備・管理の高度化と DX の推進
- ・建設産業 PR パンフレットの修正素案

【説明事項に対する意見等】

< 中高生の感想を反映した内容検討の必要性 >

- ・札工の先生たちが見て分かりやすいとかいっても意味がない。現実の中学生・高校生に見てもらって感想を聞いた方がいいのではという感じがする。
- 以前の協議会の時点で中高生のご意見を伺うべきではないかという指摘も受けていたことも受けて、どういった確認方法がいいのかと内部で検討してきた。札幌工業高校の先生に聞いた意図としては高校生に日ごろから触れられている先生だということと、進路指導など中学校の窓口になっている先生であったりしている方もおり、中学生のニーズも把握されているということを期待して、見ていただいた。ご指摘の通り、内容として固い部分があり、子供向けにブラッシュアップしていかなければいけないというところもある。今後はターゲットとなる人たちに確認は必要だという認識は持っている。
- ・特に表紙の次のページで「いいね！SAPPORO」や「未来をつくる建設産業」というところを中高生が見てみたいと思うような内容にさせていただくといいと思うので、実際に中高生に見ていただいて、活かしていただきたい。

< 建設コンサルタントに関する技術の仕方 >

- ・4ページ「建設産業で働く人たち」に「建設コンサルタント」と2つ載っているが、建設コンサルタントは業態で、それ以外の方は資格を持った人の名称となっている。ただ、建設コンサルタントを、例えば技術者や RCCM に置き換えて表現しても適切に表してないので、やむを得ないと思う。

- ・建設コンサルタントの中にもエンジニアやマネージャー、クリエイター。いろいろな人たちにつける形容詞があるので、難しい。
- ・建設コンサルタント会社、建築は建築事務所、測量は測量会社とか、そういうところで働く人々ということで、会社ベースで（書く方法もある）。
- ・コンサルタントという名称そのものに認知度が低いかもしれない。多少注釈がいるのかもしれない。

<ターゲットに応じた構成や見せ方への配慮>

- ・魅力が一番大事というのがコンサルタントの PR パンフレットでもよくある。当協会の PR パンフもほぼ同様の内容で、項目でいうと、社会情勢は何か、コンサルタントとは何か、まちの課題とコンサルタントの仕事は何か、魅力は何か。コンセプトは同じだが小学生向けと一般向けで字の大きさや優しさを変えて作っている。
- ・中高生を一緒にするのがいいのか、多少手間がかかるが、ターゲットが違うのであればターゲットが違ふなりの対応をした方がいい。若い方は楽しいという言葉をよく使い、積極的に、一生懸命やっていると楽しさと魅力がつながるのが中高生についても受けやすいコンセプトになると思う。
- ・中高生がなりたい職業のランキングを見ると、エンジニア、デザイナー、マネージャーという英語表記であれば若い人たちには感覚としてつながると思う。
- ・キャッチーな文字使いというか、そういうものもぜひ今以上に考えるべきだと思う。

<より詳しい内容を参照してもらうための工夫>

- ・このパンフレットは建設業全体の魅力を伝えるもので、各業種の協会の業域を紹介するのは難しいと思うので、各協会でも PR しているものにリンクできるような、何か工夫をこらしたらいのではないかと。QR コードをつけておいてそこからホームページに飛ぶとか、参加協議会の方にリンクできるようなことができれば、もう少し深く紹介できると思う。
- 各業界団体のホームページ、各企業のホームページとリンクを札幌市のホームページから辿っていけるような仕掛けを、今後検討していきたいと思っている。パンフレットの中にギョウギョウ押し込むより札幌市のホームページの中で各業界団体、各企業へのアクセスがしやすくなる手法を検討していきたいと思う。ご協力よろしくお願ひします。
- ・このパンフレットの中にも一つ、札幌市のホームページかどこかへ飛べるところを作っておくといい。

<建設産業全体の全貌や外観が分かるような工夫>

- ・建設産業とひとくくりについても、業界として集まるだけでかなり数がある。その実態自体をもっと一目でわかるようなもの。建設産業という頭から始まって派生していく中でこれだけの業界があるとわかる視覚的なものが必要なのではないか。その辺で一つ、工夫をしていただきたいと思う。
- 今回のターゲット、中学生普通課程に通う学生に向けて言うと職業選択の基準を徹底している。とにかく楽しそうだということが中高生、小学生も含めて、こういった職業につきたいといったところで基準となっているといえると思う。そういった中で、次のステップとして就職に向

けた PR ということで専門課程に通う高校生や大学生に視点を向けると、学んできたことを活かせる、適性がある、安心して長く働ける、誇りが持てる、産業としての将来性、世間の評判、給与休暇などの労働環境、人材教育についての姿勢。こちらに入ってくると少しリアルな物を正確に伝えることで実感させることで導くと考えている。

就職に向けた PR ということで、インターンシップを通じて仕事に触れてもらうとともに働く先輩の体験談等を通じ就職後のイメージを持つことで入職を促すということでリアリティといったことで伝えていくと考えている。建設産業の多岐にわたる膨大な範囲、分野にわたっているところや細かい職種は今後伝えていければと考えている。

- ・今の業界団体の全体像的なものは次のステップ、高校生以降で就職を考える時にそういったものを展開していこうということ。ホームページの展開の中でリンクを張る前段で業界全体の概括的なものが分かる仕掛けをしていただくといいかもしれない。

<協議会参加団体・企業が中心として関わった施設等の掲載>

- ・「まちをつくる」で例が大通公園、札幌ドーム、創世スクエア。下の2つはスーパーゼネコンの仕事で下請けでは入っているが我々中小企業が元請けで入っていない。その辺をもう少し考慮していただければ。ここにいるメンバーは中小企業なのでその辺が主体的にやったところをとりあげていただければありがたい。

→修正素案が確定した後にご相談いただくことになるが、掲載する写真などは各業界団体にいたでいて、いいものがあればそれを抽出して載せる。こちらの内容については今後検討していくということで考えている。

<中高生に身近な若い方の意見等の掲載>

- ・今回のターゲットが中高生で、楽しそう、かっこいいイメージ、身近な人が働いている親近感というお話を PR の内容としての基準として伺いつつパンフレットを拝見すると、そのイメージとパンフレット、文字が大変多いので中学生高校生の方がめくって見られた時に2ページ、3ページと読んでいきたいなという印象に足りていないと思う。
- ・就職に向けた PR に実際に働いている人たちの体験談というお話があったが、建設コンサルタントの会社やそれぞれの代表的な業態の会社の身近な存在、年齢的には20代、30代の若い方の代表の方がこういった仕事でこういうやりがいを感じているとか、こういう面白さがあるということ載せて、顔が見えるもので、生の声が出ているものの方が面白さとか、かっこよさは伝わるのではないかと拝見して思った。可能であればご検討いただければと思う。
- ・最近各社でも若い人たちが Youtube に動画を上げたり、働いている人の声をパンフレットにしたりしているところも多いので、そういう部分を少し取り入れたらどうかということ。

→ぜひご協力をいただけるのであれば掲載する写真なり、魅力一言みたいにいただければよりよいものになると思っている。

<建設産業の役割の一つとしての環境>

- ・建設産業で一つ大事な役割が、例えば測量業も地質もそうだが、自然を相手にしている。北海道という大自然に恵まれたところで、大きく育った札幌市も自然の上に成り立っているので、産業全体で自然を大切にするとか、意外と若い人たちは環境問題に関心が高いと思うので、そ

ういうコンセプトは少し検討の余地があると思う。

- ・まちをつくる、生活を支える、地域を守ると同じ並びで環境を作るとか守るとかそういうあたりがあってもいいということ。

2) 令和2年度 of 取組状況と令和3年度 of 取組予定（案）について

資料5、資料6を用いて、中澤係長が説明。

- ・札幌市の取組（案）について
- ・各業界団体への照会結果について

○北海道造園緑化建設業協会

- ・平成30年から若手新入社員講習会を2泊3日で真駒内の宿泊施設のある研修所で実施している。出前講座をその前の年から始めていて、業界に来ていただいた方に定着してもらうためには教育しなければならないということでこの事業を行っている。
- ・内容としては、新社会人としての挨拶や電話の対応、建設業の社員としての心構え、建設現場における基本の仕事の流れ。2日目は測量機器の取り扱い、据え方など。3日目は安全基本トレーニングということでKY活動やヒヤリハットといった安全の教育を、3日間でプログラムをおこなっている。
- ・このプログラムと出前講座は北海道と厚労省の助成金制度を使って、我々の出費としては3分の2補助となっているので大変助かっている。

○札幌電設業協会・札幌電気工事業協同組合青年部

- ・10年ほど前から生徒に向けた意見交換会を開催していたが、保護者に向けた説明してもらえないかという話を学校側からいただいて、保護者に向けた業界説明会を5年前から開催。
- ・生徒が就職するにあたって一番先に相談するのは誰かということを考えると保護者で、その次が先生。保護者は我々青年部と同世代ということで意見交換会は盛り上がり、翌年からは普通科の親も参加したいという話もいただいた。
- ・琴似工業高校と札幌工業高校2校で開催している。信頼関係から一昨年からは全道の電気科教育研究会として、電気科の先生が年に1回集まって勉強会を開催している。青年部が講師となって先生方に専門的な電気の技術講習を実施している。建設業界もそうだが世代交代による技術継承が問題になっており、この問題について学校と一致団結して取り組んでいる。

○建設コンサルタント協会

- ・大きく3つの項目で説明する。建コン協「業界展望を考える若手技術者の会」の発足の経緯、北海道支部若手の会の活動概要、今後の課題認識。
- ・「業界展望を考える若手技術者の会」の背景・活動目的は、主に働き方改革と担い手確保。この問題認識を若手の方で大きくクローズアップし、業界の長期展望に対して活動するという目的で設立している。2015年4月に主に首都圏を中心に40歳代程度までの職員が50名程度。活動内容は全国の若手の会との交流や広報活動、業界志望学生とのオンライン就活セミナー、建コン協で働く若手のアンケート等、建設的な取組みをしている異業種企業との連携イベントなど。

- ・2番目の「北海道支部若手の会」は、(上の)全国の連携に伴って2018年4月に設立し、40歳程度までの15名程度で組織されている。目的・活動方針は本部と概ね同様に概ね4つ。業界に資するPR、会社同士の若手技術者の交流促進、若手の立場から業界の課題についての議論、異業種との連携。今後はコロナ禍ということで、異業種、あるいは発注機関にも若手の会があるのでそこの連携・交流会が期待されている。
- ・今後の課題認識だが、コロナ禍による活動の停滞、今後の促進が難しい。若手の会メンバーの更新の円滑化として、若手といっても代替わりが必要なサイクルで、リーダーシップをとっている方がすぐベテランになってしまう。最後に、活動目的・目標の継続性、業種や分野としての活性化や受注単価の向上、こういった業界共通の重要課題については若手の意見を認識しながら協会としても活動の参考にする、一助にする。それをさらに進めて各企業の個別判断の対応は困難。バランスが難しい。それから若手のモチベーションの向上をどうするか。協会全体の若手の職員に波及できるものがないかというのが問題意識としてあります。

○札幌市測友会

- ・今回の事例は(矢橋会長)個人が行ったもの。コロナで1年が経過したのでここで一掃したいという芸術家の方々の発想で、皆で疫病退散の妖怪アマビエを描くグループ展をしようという呼びかけがあった。会場は、円山のカフェエスキスというギャラリーカフェ。このオーナー(元同業他社の方)から呼びかけられて、グループ展15人の一人に加えていただいた。
- ・14人がプロの中一人が素人で、当社(北海航測)も持っている航空レーザーの点群データを応用した点描画という勝手な創作をした。もっと突っ込もうということで空中写真を図化する直前の中途半端なところをアマビエの背景画に配した。
- ・アートはあまり好きではないが、知名度を上げるのにアートと手を組んでもいいかとPRに使うようにしている。
- ・現在短大で現代社会を教えており、19歳の女の子たちは、新聞も読まない、テレビも見ない。もともとニュースに関心がなく世間をよく知らない。そういう子たちに業界をPRする術として、いろいろな手段があるかもしれないが、馬鹿馬鹿しいところに突っ込んでいくのも業界PRの一つかなと考えた。

<外国人実習生の雇用や外国人に対する支援>

- ・施策3-4、3-5くらい、企業の枠を超えた若者・女性の活動に対する支援だが、若者・女性の活動はもともとだが、札幌市内の建設会社、業界の会社には、外国人の実習生やエンジニアを雇用している会社が増えている。外国人を採用する企業はそれぞれ企業で対応していると思うが、なかなか横の連携がなくて外国人同士が困ったときにどうしたらいいのか悩んでいるという話を聞いている。外国人を雇用している企業に対する支援あるいは外国人に対する支援を入れていただけるとありがたい。
- ・それぞれ企業の中でも研修生を抱えているけれども、横のつながり、地域的な横のつながりはすごく重要だと思うので、外国人を雇用されている企業、あるいはその研修生に対するケアについて、ご検討いただければと思う。
- ・我々(のような中小の企業)が携わらなかつたら建設業界の仕事は進んでいかないと思う。その意味では中高生をターゲットの話よりは外国人労働者を取り入れるのが手っ取り早い。外国

人労働者に対しての免許取得などへの助成、支援を市でも考えていただければと思う。また、外国人に限らず、若い人を入れるということは資格を取るにあたって年数が必要で、試験を受ける段階になるまでいたらない状況で取り入れなければならないので、そういうことも考えてさらに進めていただければと思う。

< BIM/CIM に関する国や他自治体の動向 >

・施策 6-2-4 で BIM/CIM 活用業務及び設計段階からの 3 次元設計図面の導入の検討と、今年国とか他自治体の動向について情報収集とあるが、どのような雰囲気かお聞かせいただきたい。

→BIM/CIM や i-Con については、インフラ分野 DX の推進ということで国交省が進めている。国交省は 2023 年度までに小規模なものを除くすべての公共事業について BIM/CIM 活用へと転換ということで、あと 3 年もすると完全実施という方向性。

札幌市もインフラ分野の DX ということで始められるものから始めていかなければならないが、国が進めている環境のレベル、スタート地点に立っていない部分もあるので、まずはどういったことから手を付けていくべきか何からやっていくべきなのかというところの情報収集から始めていきたいと思っている。

< 施工時期の及び業務履行期限の平準化の推進 >

・取組目標 2-3 施工時期及び業務履行期限の平準化の推進とあって、債務負担行為を活用して履行期限の平準化を進めるということで、秋頃から 4 件程度試行的に行うということでこれは大きな進展だと思っている。協会としても業務に関する定量化を前回の協議会で要望させていただいていたことである。

< 建設産業から公務員への転職 >

・取組の担い手確保に向けた推進ということで、プランも各業界団体の照会内容にも離職防止という言葉がある。先ほどまでの採用のための PR と同じように、離職に対する問題意識は建設産業にも大きくクローズアップされるべき問題だと思う。全産業の雇用動向調査があり、若手職員の離職はどのような産業も多い。辞職理由は、出向等を含むその他の理由ということで行った先で相手から請われて転職するということになると思う。労働条件が悪いということもかなり多い。30 歳以下の離職者が 6 割と非常に大きく、他産業や同業他社が 5 割以上あるが、地方公務員や国家公務員も確かにある。最近公務員の皆様も社会人を採用するという毎年の動きによって一方と言えば業界のリーダーとなるべき 30 歳から 60 歳。そのくらいの幅を持って道庁も札幌市も採用していて、選択の自由はあるけれども、大変驚異だということを言わざるを得ない。民間企業の担い手を確保して、離職防止を大きく掲げていただいて、今の制度どうこうというわけではないですが、そういったことに配慮をお願いしたい。

3) その他

< 札幌市 ICT 戦略室 >

・札幌市役所の中で ICT を特化して担当している戦略室がある。先月道新に札幌市の取組として 3D 地図、国交省からの提供データを基にして札幌市が利活用するという記事が出ている。そこまで用意されているのであれば建設業から ICT 戦略室に何かご提案あるいはお話し、情報交換

があれば仕事の広がりもできるのではないかと考えた。

- ・以前やっていた札幌若力会という青年部で測量体験学習会を各小学校でやっているが、教育委員会の担当が常に代わるので毎年同じ説明をしなければならないということもあり、教育委員会がもう少し私たちに寄ってくれれば助かるというお話をしたし、そういった事例はほかの下水道局や建設局内、土木の中とは違うところにも広がりがあるので横断的に融通が利くようになればいいのではないか。
- ・i-Con や BIM/CIM、札幌市では情報ということで各部署でいろいろな情報を持っている。GIS 的にいろいろな情報を持っている。そういうある意味窓口があれば外から見たときに非常に分かりやすい。札幌市としてのこういうことに関する窓口についてもニーズがあるし、札幌市の組織内でいろいろな情報がいろいろなところにあるということを調査していただくことも必要ではないか。そのへんも情報収集の一つに加えていただければということだと思う。

6. 連絡事項

- ・ワークフェスさっぽろ合同企業説明会
- ・さっぽろ MEETS (出会い) プロジェクト
- ・札幌市働く世代への健康増進アプローチ研究事業

・閉会挨拶 (國兼土木部長)

建設産業の体制を将来にわたり維持していく為に何が重要なのかということでこのような会議を行っております。やはりまずは人を確保するにはどうしたらいいのか。どうしたら人に入ってもらえるのかということから。入った方がどれだけ残ってもらえるのか、そのためには何をすべきなのかということをお我々はこれから議論していかなければならないということだと思っております。

そこで今日のテーマになりますが、入ってもらおうためのアプローチとしての PR パンフレット。PR パンフレットの作り方については前回の会議からも有用なご意見をいただいて、今回も修正をさせていただいて提示しましたが、やはりパンフレットに関してはいろいろみなさまの思いがあると思っておりますので引き続き意見交換いただきました。パンフレットというのはページが限られたものですので、この PR パンフレットの中にどこまでを網羅することが大切なのかというところが大事だと思っております。そして、これを見た人が次このパンフレットを持って次の段階に入っていくというアプローチの仕方も、招待の仕方もあるということも覚えておかなければいけない。これがパンフレットの作り方の難しいところだと皆様と共にご確認させていただきました。また、修正をして提案する形をとらせていただきたいと思います。

札幌市もそうですが、各団体のみなさまの取組状況のお話をさせていただきました。こういった会議をもって皆様方がどういった取り組みをしているかということを知りえていく上で、そこで自分たちにどういったものを取り入れることができるのか、望ましいのかとしながらこれを続けて活性化していくというか、よりよい就業環境につなげていくことが大切ではないかと思っておりますので、この推進協議会これからも続けていきますので、よろしくお願ひします。

最後になりますが、いろいろご意見いただきましたことをまたまとめさせていただきこれからの会議に活かしていきます。本日はありがとうございました。お疲れさまでした。